

米政策など課題探る

山形県青協と
女性協

J A中央会と懇談会

【山形】山形県J A女性組織協議会と県農協青年組織協議会は21日、山形市の県J AビルでJ A山形中央会役員との懇談会を開いた。約30人が出席した。2018年産以降の米政策見直しや生産現場に密着した指導などについて課題を探った。



山形から、ぜひオール

日本の取り組みとなるよう政府を動かしてほしい」との要望が出た。担い手と労働力の確保では草刈り隊のように、兼業農家も広く地域農業に引き込む支援策や、地域を守る親元就農を後押しする施策推進への理解を求める意見が出た。

J Aグループ山形地域・担い手サポートセンターについて意見を交わした懇談会(21日、山形市で)

ターは「担い手不足は切迫した状況にあり、外国人技能実習生の受け入れに加え、農業の仕事を求めて全国を渡り歩く人や学生向けの求人なども検討している」と答えた。女性協からはJ Aに対

し、生産現場に密着した技術や経営指導の強化とともに、地域により溶け込む営農指導員体制の充実を求める意見などが出た。

J A山形中央会の阿部茂昭副会長は「職員のスキル向上と現場へ出向く体制の強化にJ Aを挙げて、さらに力を入れる。地域にとって、なくてはならないJ Aとなるよう創造的自己改革の実現に力を貸してほしい」と一層の協力を求めた。